



大野市教育委員会たより

令和元年10月28日発行 第31号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月21日（月）午後7時～8時50分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：和泉保育園 ・2部 意見交換
対象者：保護者（5人）・保育士（4人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎和泉小にこれから入る子どもの数を考えると、学校が成り立つのか。
- ⇒■複式学級でも教育はできるが、和泉小では正直なところ、小学校だけでは大変であると聞いている。しかし、和泉小は中学校と同じ施設で連携があるため、学校行事などが成り立っている状況だろう。
 - ⇒○成り立っているように見えるが、友だちはどうしても限られている。友だちと合わなかったり、喧嘩したりすると、逃げ場がない。再編してほしいような、してほしくないようなどうしていいかわからない。
 - ⇒■再編で一番不安とされているのが、通学距離や通学時間である。小さい子どもにとっては、20分や30分の通学でも心配とされている。
 - ⇒○それは分かるが、少ない人数による学校生活の方が心配だ。
 - ⇒■現状の道路では40～50分掛かると思うので、早急な再編は難しい。
 - ⇒○最初の計画では、陽明中に和泉中が再編されるようになって嫌だと思ったが、その後の計画では中学校を1校にするということで良いと思った。中学生全員が改めて1つになるという方が良いと思った。
 - ⇒■これまで行ってきた再編は、大きい学校に小さい学校を再編してきた。（平成18年度から平成24年度までの再編経過を説明）富田小、森目小、蕨生小の再編は、3つの学校の力が合わさって、すごく良い学校になっている。連合体育大会などではすごい力を発揮している。これからは地区から学校がなくなってしまう再編となる。慎重に考えていかないといけない。
- ◎学校再編に対しては、賛成反対半々の気持ちである。和泉小中は、小学校、中学校の壁を乗り越えて結団力があり、体育大会や音楽会などを立派に行っている。絆の深さを見ていると大きい学校になってしまうのはもったいないと思う。再編を行うのであれば、小さい学校同士の再編ならなんとかなると思うが、いきなり大人数になると、この和泉で積み重ねてきたものが無くなってしまう不安がある。大きい再編は極力避けて欲しい。全く再編しないというのは、これから先のことを考えると仕方ないと思う。
- ⇒■音楽会では、人数は負けているが声では負けていない。保護者も教職員もみんな頑張ってくれている。
- ◎以前の和泉小中の校長先生が、少ない人数でも社会性は育っていると断言していた。少ない人数だから人と関われないという心配はない。少ないからこそ、人とうまくやっていると生きていけないことがある。この場所は、森目小が富田小へ再編とか、蕨生小が富田小へ再編というレベルではなく、とても遠い地域である。高校生の子どもが市街の高校まで毎日車で通っているが、高校生でもしんどい感じである。和泉小は複式学級だが、前後の学年に子どもがいれば、教室で1人きりになることはない。中学校は単式学級なので、少人数による教育環境は厳しい。高校に上がった我が子が初めてたくさんの人数で合唱を行い、「合唱ってこんなに楽しいんだ。もっと早く出会いたかった」と言っていた。中学校の生徒数は現在7人であり、中学校の再編はちょっと早くしないとと思う。
- ⇒■中学校だけを再編すると、小学校だけが残り、学校内の人数も減ってしまうことになる。
 - ⇒○それは非常に寂しくなる。どうしたらいいのか。和泉小中に魅力があり、人が呼べれば子どもの数が増えて良いのだが。冬はスキーなど。
 - ⇒■今年、各学校のスクールバスに乗ったが、乗車時間が多少あっても、バスの中には同学年の友だちや先輩、後輩と一緒に乗っているので、しゃべりながら通え、気が紛れるところはあると感じた。奥越特別支援学校

のスクールバスは、約1時間かけて勝山の学校へ行っていた。子どもはそんなに疲れている様子はなかったが、トイレにいけないので可哀想と感じた。

⇒◎冬になると、通学時間はもう少し掛かると思う。

⇒■通学のことは、保護者の一番の不安なことであると認識している。

■再編などでどんな感じになると嬉しいか。

⇒◎和泉で人が増えるなどの補助体制が欲しい。和泉に興味を持って住みたいと思っても、住む場所（アパートや住める空き家）がない。住むための受け皿があれば、和泉に留まると思う。伝統芸能や人数が少ないことによる子育て・教育環境に興味を持って、ここに来れない。この地区には移住してきている人が何人もいて、受け入れる土壌があるため、来やすい場所であると思う。

⇒■和泉地区だけでなく、阪谷地区などにも同じような地域はあり、すべてに補助するのは難しい。

⇒◎市街の方が補助は受けやすいし、補助メニューもたくさんある。和泉には売りがいっぱいある。

⇒■中部縦貫自動車道が完成することで交通の便が良くなり、市街に通いやすくなるので、和泉地区の方が人を増やすための戦略を市に提案していくことも大事かと思う。

⇒◎和泉地区だけ税金が安くなれば人が来ると思う。

■他の場所での意見交換会では、再編で学校が遠くなると子どもが急病になった時に、すぐに駆け付けられない心配をされている保護者もいる。その場合、タクシーで病院へ送迎するなどの手段をとることを説明している。核家族化が進み、親と同居していない家庭が多くなっており、夏休みなどの長期休業中に子どもを見る大人がいない状況となっている。

⇒◎夏休みにプールが児童館から離れているため、行くことができない。

⇒■市街の児童館でも、たくさんの子どもが来るため、児童館の職員が少なく、なかなかプールへ連れて行くことが出来ない状況と聞いている。



◎学校再編は進めてもらえば良い。自分も和泉中の時、少ない人数の中学校でなくても良いと思っていたし、大野高校に入学した時、(たくさん人数がいるので人間関係などで)「楽だ」と思った。子どもがずっと小さい学校にいる必要はないと思っている。もっと視野をどんどん広げて欲しい。どうしても子どもは今いる世界がすべてと感じている。子どもがサッカースクールで、初めて会った子と数十分でなじんでいたのも、再編は心配していない。すぐになじめない子は助けてあげれば良い。市街への再編になっても、子どもが通学などですごく大変になるとは感じていない。小さい子どもの体力面には不安があるが、勉強については心配していない。ある程度の人数的中で育ってくれた方が子どものためになると思う。

◎1度住んでいる地域から出ることで、自分が育った地域の良さが分かる。和泉中を卒業後、高校に入った時、初めてのことが多すぎた。中学では剣道部と陸上部だけだったため「吹奏楽部って何？」という衝撃を受けた。文化系の部があることも知らなかった。中学生であれば市街へ通える年齢でもあるので、再編により、部活動の選択も友だち関係も広がると思うし、将来の進路や夢が広がるのではないかと思った。

◎小さい学校、大きい学校、どちらにも良さはある。学校再編には、いろいろな意見がある。完全に納得できる方法は見つからないと思う。保育園に関しては、少人数の方が子どもをしっかり見ることができるし、大きい保育園の子どもに決して劣っていない。発表会もしっかり出来ている。

⇒◎小さい学校では、小さい学年の子どもに運動会などで負担が掛かっているかもしれない。

⇒■連合音楽会でも、人数が少ないので1人1人がズルをすることが出来ない。

⇒◎和泉は、保育園・小学校・中学校が同じ施設であり、子どもに一体感がある。運動会などでも中学生が保育園児をしっかり受け止めてくれる。競争意識はないが、アットホーム感はある。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

